

飛び級制度について

北進ゼミナール

とある夏の日、何気なくネットニュースを眺めていると「米 13 歳女子生徒が医学部に合格」という見出しが目にとまった。その記事は「アメリカの 13 歳の女子生徒がアラバマ大学医学課程への入学を許可された。同大学には条件を満たした生徒の早期入学を認める制度がある。彼女は昨年 12 歳でハイスクールを卒業して現在別の大学に在籍している。そして今回、同大学から合格通知を受け取ったと Instagram で発表した」(注)というものであった。

このように、極めて優秀な成績を修めていたり、特定の分野で優れた能力を持っていたりする生徒が本来の学年を飛び越して進級していくことを「飛び級」と言う。日本でも「大学への飛び入学」「大学 3 年次での早期卒業」という形での飛び級は存在し、2021 年には高 2 修了時点で京都大学医学部に早期入学した学生が新聞で紹介されたりもしている。ただ、日本の場合は大学や大学院への入学や卒業を 1～2 年早める運用になっているだけで、小中学生を対象とした制度にはなっていない。また、資料 I と資料 II を見比べると大学ですらまだまだ一般的でないのが現実である。一方、海外には飛び級制度を積極的に運用している国がいくつもある。資料 III は 2018 年時点で世界各国の 15 歳の生徒がどの学年に在籍しているのかを表したものである。標準より上の学年に在籍している生徒の割合が高い国や、逆に標準より下の学年に在籍している生徒の割合が高い国もあつたりすることが分かる。つまり、日本の「年齢＝学年」が世界標準の考え方ではないのだ。

ここでは、標準より下の学年に在籍することの是非については省き、小中学生の飛び級にのみ焦点を当てて話を進めたい。

飛び級は、自分の能力に合った教育を受けたり、才能を開花させたりすることができるという点で優れている。しかし、幼いうちに飛び級して年上の生徒たちと一緒に過ごすことになる、体力面や精神面が追い付かず同じ活動ができなかったり、年齢差で生じる興味や関心のズレから周囲と上手にコミュニケーションを取れなかったりするのではないかという不安がある。そして、集団になじめない生活を続けた結果「勉強はできても協調性がね…」となって、希望の職に就けないという事態に陥ってしまうかもしれない。また、幼いうちから天才、優秀生などと扱われることによって過度なプレッシャーに悩まされることもあるだろう。その場合、年齢を重ねるにつれて精神的により追い詰められ、卒業する頃にはすっかり無気力になってしまうという懸念も残る。このように飛び級には、慎重にならないといけない側面がある。資料 IV は日本に飛び級制度を本格的に導入することへの賛成意見と反対意見の抜粋である。これらも参考にしながら自分なりの意見を組み立てていくといい。

教育に対する考え方が国によって異なるのはある意味当然だと思う。それはそれぞれの国が歩んできた歴史の結晶のようなものだからだ。一方で、グローバル化が進み、不確実性も増してきている世界で生きていくには、今までの自分たちの常識にこだわりすぎず、諸外国の制度の中でいいものは取り入れていくことも必要だろう。今の時点で小中学校に飛び級制度を導入することについて「正解」というものはない。だからこそ、あなたなりの自由な発想で意見や提案を述べて欲しい。

以上

(注)出典：ライブドアニュース配信記事(2022 年 7 月 27 日)

□資料Ⅰ 国内で飛び入学制度のある大学(令和3年度入試) 注)制度導入順で掲載してある。

区分	制度導入大学(学部)一覧(国:国立・公:公立・私:私立)	大学数
飛び入学制度のある大学	国千葉大(文/理/工/園芸)・私名城大(理工)・私エリザベト音楽大(音)・公会津大(コンピュータ理工)・私日本体育大(体)・国東京芸術大(音)・国京都大(医)・私桐朋学園大(音)	8

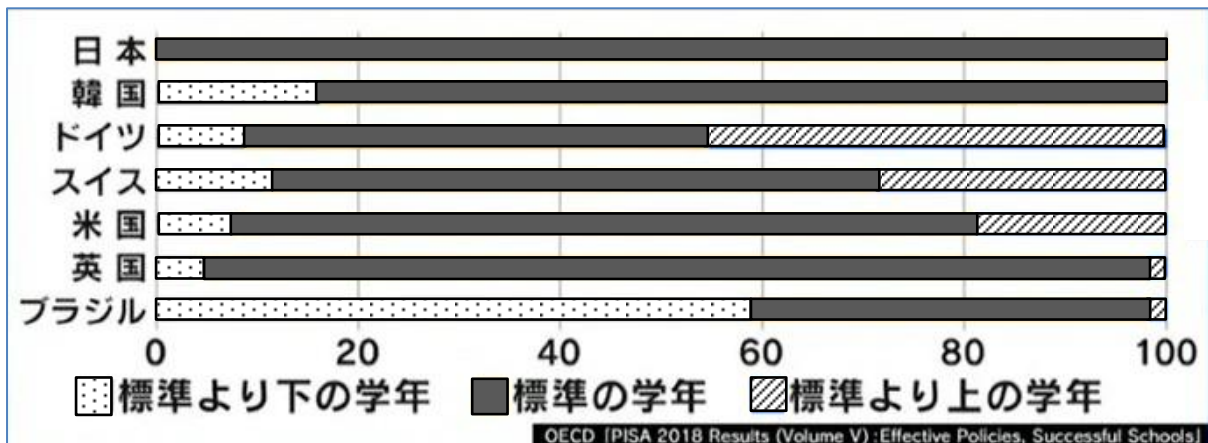
出典：文科省 HP「令和3年度入試における飛び入学実施大学」より加工

□資料Ⅱ 国内の大学数(令和3年5月時点) 注)資料Ⅰに掲載の大学を含む。

区分	国立大	公立大	私立大	合計
大学数	86	98	621	805

出典：文科省 HP「令和3年度全国大学一覧」より加工

□資料Ⅲ 各国における15歳時点の在籍学年人数割合



出典：ABEMA Times HP「日本で根付かぬ“飛び入学”経験者とともに考える」より帯グラフ加工

□資料Ⅳ

日本に飛び級・飛び入学制度を導入することについて	
賛成意見抜粋	反対意見抜粋
<ul style="list-style-type: none"> ・優秀な子は授業中暇を持て余して叱られる理不尽なこともしばしばあるから。 ・もっと頑張って時短人生を送れそうだから。 ・特別に優秀な人はどんどん先に進んだらいい。 ・能力がある子をどんどん伸ばして、日本の未来を明るくして欲しい。 ・勉強する側のモチベーションが上がるし、同レベルの中で勉強できるのはいいと思う。 ・いじめで悩んでいる子も頑張ればいじている奴らと別られるかもしれないから。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校では勉強以外も学ぶので時間はかけた方がいい。 ・勉強だけじゃなくて内面も大事なことで、内面の成長がおいていかれる気がする。 ・同じ時間をみんなと一緒に同じく過ごして欲しい。 ・その年齢なりの経験をやらずに飛ばしてしまうのはどうかと思う。 ・大学ならともかく高校生までは1歳差の違いって大きいと思うから。 ・勉強ができれば全てよしというわけにはいかない。 ・日本人にはまだ馴染まない気がする。

出典：COCO topi 「飛び級・飛び入学制度に賛成？反対？」より抜粋

飛び級制度について

日本ではあまり馴染みがない飛び級制度ですが、海外の一部の国では小中学校教育課程でも当たり前のように運用されているようです。そこで、今、中学生である皆さんにこの制度を導入することについて意見や提案を述べてもらおうと考えました。課題文や資料Ⅰ～Ⅳに目を通した上で、以下の条件に従って常体語(「～だ」「～である」調)で作文を書いてください。

なお、課題作文は以下の手順に従って2日間又は3日間に分けて取り組んでください。(2)で示されているそれぞれの目安時間内でできるベストを尽くしましょう。また、(3)でテンプレートが示されていますが、それにこだわる必要はありません。(1)(2)の条件を守れば自由に書いて構いません。

(1)指定作文用紙に800字以内で書くこと。タイトルは不要です。

(2)以下の順番で取り組んでください。注)目安時間(2～3日間合計2.5時間程度)を意識すること。

- ①【初日 15分程度+α】「自分の意見を定めるぞ」という気持ちで課題文を読み、線を引いたり思いついた言葉を課題文の余白にメモ書きしたりする。ネットで調べたことを書き加えてもいい(+α)。
- ②【初日 15分程度】資料Ⅰ～Ⅳを見て線を引いたり読み取ったことをそれぞれメモ書きしたりする。
- ③【初日 or 二日目 60分程度】①と②を利用してノート等に下書きする。
 - ・「小中学校に飛び級制度を導入することに賛成だ」or「小中学校に飛び級制度を導入することに反対だ」or「小中学校に飛び級制度を導入するには工夫が必要だ」のいずれかで書き始める(1分)。
 - ・課題文や資料を参考にしながら、日本の現在の制度や世界各国の飛び級制度の導入状況について読み取れたことやその感想を200～230字程度で書く。
 - ・飛び級制度のメリット又はデメリットについて(両方でも可)100～150字程度で書く。
 - ・自分自身の書き出しの意見の根拠又は詳細を300～400字程度で書く。再結論を述べる場合には書き出しと矛盾がなく、かつ異なる言い方を用いること。
- ④【二日目 or 三日目 20分程度】③で完成したものについて別日に音読をしながら、誤字脱字の訂正、句読点・助詞・接続詞の点検及び修正、表現の変更を行って800字以内に収まるようにする。
- ⑤【二日目 or 三日目 30分程度】④で修正したものを指定原稿用紙に清書しながら最終確認を行う。

(3)書き方がよく分からないという生徒は以下のテンプレートを参考にして書いてください。

- ① (2)③の下線部のいずれかを選択して書き始める。
- ② 「課題文や資料を見ると、日本では飛び級は～ということが読み取れる。大学では早期入学が行われているが、その制度を導入しているのは～。そして～系や～系の分野への偏りがあると思った。その一方で海外に目を向けてみると、特に～(国名)では十五歳時点で飛び級をしている生徒の割合が～ということが分かる。また、～や～でも○%を超える生徒が飛び級をしている。～という常識が必ずしも当たり前でないことを知って私は～と感じた」

注)原稿用紙が縦書きなので数字は漢数字を用いて書くこと

- ③ 「飛び級制度のメリット(or / and デメリット)は～だったり、～だったりすると課題文(or 資料)にあるが、私は～と思う。私には～という経験がある。その時に～と感じたことを記憶している。だから私は～して欲しいと考えるのだ。そして、～な状態になることを望んでいる」

以上